2024年1月3日(水)　東京ドーム
アメリカンフットボール日本選手権プルデンシャル生命杯

第 77 回ライスボウル取材のご案内

2023 年 12 月 21 日

公益社団法人日本アメリカンフットボール協会
一般社団法人日本社会人アメリカンフットボール協会

公益社団法人日本アメリカンフットボール協会
〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町 4-2
Japan Sport Olympic Square 801
TEL:03-5843-0482　FAX:03-5843-0483

JAPAN AMERICAN FOOTBALL ASSOCIATION
#801 Japan Sport Olympic Square
4-2 Kasumigaoka-machi, Shinjuku-ku
Tokyo 160-0013,Japan

アメリカンフットボール日本選手権

プルデンシャル生命杯第 77 回ライスボウルについて

アメリカンフットボール日本選手権プルデンシャル生命杯ライスボウルは、1948 年に関東大学選抜対関西大学選抜のオールスター戦として誕生しました。1984 年から大学リーグ代表と社会人リーグ代表が日本一の座を懸けて戦う日本選手権に位置付けられ、日本のアメリカンフットボールの最高峰ゲームとして数々の名勝負を生んできました。

2022 年の第 75 回大会からは社会人アメリカンフットボール・X リーグが王座を決定する試合となり、今シーズンで 3 年目を迎えます。

ライスボウルを争うのは X リーグのトップカテゴリーである X1 Super です。X1 Super に所属する 12 チームが 2 つのディビジョンに分かれてリーグ戦を戦い、各ディビジョンの上位 4 チームがプレーオフにあたる「ライスボウルトーナメント」に出場します。まさに「トップ・オブ・トップス」を決める日本選手権試合がプルデンシャル生命杯ライスボウルです。

ライスボウルの歴史は日本のアメリカンフットボールの競技力向上の歩みでもあります。75 年を超えるライスボウルの歴史の間にスポーツ界に押し寄せた国際交流やグローバル化はアメリカンフットボールも例外ではありませんでした。IFAF 世界選手権などの国際大会が開かれる一方で、海外リーグでプレーする日本人選手も多く誕生しました。

経験豊富なアメリカ人指導者や NCAA トップクラスでプレーした選手が国内リーグのチームに参加したこともリーグ全体の競技レベルアップに大きく寄与してきました。

現在では NFL や CFL といった海外主要プロリーグとの連携も強まっています。2021 年以降は毎年日本人選手が CFL で活躍しており、2023 年シーズンも 3 人の日本人選手が CFL でプレーしました。まだ見ぬ日本人 NFL 選手の誕生も遠い未来の話ではありません。

2023 年 1 月に開催された Japan U.S. Dream Bowl では X リーグや大学リーグからの選抜選手に加え日本でプレーする外国籍選手を含めた「全日本選抜チーム」を組織し、米アイビーリーグの選抜チームと対戦しました。試合には惜しくも敗れましたが、互角以上の戦いをし、アイビーリーグの指揮を執ったアル・バクノリ前コロンビア大ヘッドコーチからは「私が最初に対戦した 90 年代から日本は驚くべき進化を遂げた」と称賛を受けました。

アイビーリーグとの対抗戦は 2024 年 1 月 21 日に Dream Japan Bowl として国立競技場で再び開催されます。さらに競技レベルのあがった全日本選抜チームの戦いに注目してください。

2023 年はアメリカンフットボールにも大きな出来事がありました。フラッグフットボールが 2028 年ロサンゼルスオリンピックの追加種目に決まったことです。フラッグフットボールはパスやランでボールを進めて得点を競うアメリカンフットボールの基本要素はそのままに、タックルの代わりに腰に付けたフラッグを取る親しみやすいスポーツです。

正式に五輪種目となったことでこれまで以上にフラッグフットボールへの注目度が上がり、競技人口も増えることが予想されます。現在の大学リーグや X リーグで活躍する選手の中でもフラッグフットボール出身の選手は多く、フラッグフットボールの普及がアメリカンフットボールのすそ野拡大につながるものとの期待が多く寄せられています。

それを実現するには、フラッグフットボールの普及に伴って注目度が上がるアメリカンフットボールもより魅力的なスポーツとならなければいけません。ライスボウルは日本のアメリカンフットボールの最高峰の試合としてさらに多くの人を魅了するボウルゲームとして進化・発展をしていきます。

2023 年シーズンの日本一を決めるアメリカンフットボール日本選手権プルデンシャル生命杯第 77 回ライスボウルにぜひご期待ください。

公益社団法人日本アメリカンフットボール協会
〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町 4-2
Japan Sport Olympic Square 801
TEL:03-5843-0482　FAX:03-5843-0483

JAPAN AMERICAN FOOTBALL ASSOCIATION
#801 Japan Sport Olympic Square
4-2 Kasumigaoka-machi, Shinjuku-ku
Tokyo 160-0013, Japan

大会開催概要

【第 77 回ライスボウル大会実施要項】

■試合名称：アメリカンフットボール日本選手権プルデンシャル生命杯第 77 回ライスボウル
American Football Japan Championship Rice Bowl 77 by Prudential
■日時：2024 年 1 月 3 日（水）15 時 00 分 キックオフ（開場 13 時）
■会場：東京ドーム（東京都文京区後楽 1-3-61）
■主催：公益社団法人日本アメリカンフットボール協会
■主管：一般社団法人日本社会人アメリカンフットボール協会
■運 営 協 力：一般社団法人関東学生アメリカンフットボール連盟
■後　　援： スポーツ庁、アメリカ大使館、日刊スポーツ新聞社、読売新聞社
■特 別 協 賛：プルデンシャル生命保険株式会社
■協　　力：株式会社東京ドーム、他
■対　　戦：富士通フロンティアーズ対パナソニック インパルス
■試 合 形 式：1 クオーター 15 分の 4 クオーター制、ハーフタイム 30 分
第 4Q 終了時点で同点の場合は「タイブレークシステム」を適用して延長戦を行う。
■ベンチエリア：一塁側が富士通フロンティアーズ　三塁側がパナソニック インパルス
■放 送： NHK-BS （ 生中継）※ 15 時 00 分～試合終了まで（予定）
■配信： X リーグ TV on アメフトライブ by rtv (https://live.amefootlive.jp/）でディレー有料配信
■観戦チケット（販売価格は税込み）：
◆タッチダウン DX シート（半個室）／食事付（叙々苑カルビ弁当・2 ドリンク券）、RB77 オリジナルグッズ付　前売のみ：1 名あたり 25,000 円
※ 4 名、5 名、6 名、7 名、8 名、9 名、10 名の各部屋あり
※ 特典は、座席の定員人数分の提供
※ 一部特典内容が変更になる可能性がございます。
※ タッチダウン DX シートは以下サイトでのみ販売（カード決済）いたします
https://w.pia.jp/t/ricebowl-ss/
一般販売：2023年12月19日（火）10:00～2023年12月27日（水）23:59
◆バルコニー指定席／食事付　前売：10,500 円　当日：11,200 円
◆バルコニー指定席／食事なし　前売：6,500 円　当日：7,200 円
◆ 1 階内野席・車いす席　前売：5,000 円（2,500 円）　当日：5,700 円（2,850 円）
◆ 2 階席　前売：4,500 円　当日：5,200 円
◆外野席　前売：3,000 円（1,500 円）　当日：3,700 円（1,850 円）
◆ LIVE エンターテイメントシート　前売：3,000 円　当日 3,700 円

※全席指定 大会プログラム無料配布
※（ ）内は子供料金（小学生以下）。（）表記のない席種はこども料金はありません。
※車いす席をご利用の方は、「1F 内野席」のチケットページより購入のお手続きをお願いいたします。

■前売券販売場所：X リーグチケット　https://xleague.tstar.jp/

※チケットご購入の際はベンチエリアを必ずご確認ください。
※タッチダウン DX シートは専用サイト（https://w.pia.jp/t/ricebowl-ss/）での販売です。

■備考：

① 本競技会は、日本アンチ・ドーピング規程に基づくドーピング・コントロール対象大会です。
② 本競技会参加者は、競技会にエントリーした時点で日本アンチ・ドーピング規程にしたがい、ドーピング・コントロール手続の対象となることに同意したものとみなします。
③ 本競技会参加者は、本競技会において行われるドーピング検査 (尿・血液等検体の種類を問わず) を拒否又は回避した場合、検査員の指示に従わない場合、帰路の移動等個人的諸事情によりドーピング検査手続を完了することができなかった場合等は、アンチ・ドーピング規則違反となる可能性があります。アンチ・ドーピング規則違反と判断された場合には、日本アンチ・ドーピング規程に基づき制裁等を受けることになるので留意して下さい。
④ 競技会・競技会外検査問わず、血液検査の対象となった競技者は、採血のため、競技 / 運動終了後 2 時間の安静が要となるので留意して下さい。
⑤ 日本アンチ・ドーピング規程の詳細内容およびドーピング検査については、公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構のウェブサイト (https://www.playtruejapan.org) にて確認して下さい。

■ハーフタイム　：【77th RICE BOWL HALFTIME SHOW presented by GA technologies】
出演アーティスト「WANIMA」
■試合前イベント：
◆ X LEAGUE AWARDS 2023（メインビジョンにて発表）
◆高校、大学フットボールリーグ優勝・監督表彰
◆フラッグフットボールアジアオセアニア大陸選手権　優勝・女子チーム

■問 合 せ 先：ライスボウル実行委員会（日本アメリカンフットボール協会）
電話 :03（5843）0482
■公 式 サ イ ト：
◆日本アメリカンフットボール協会：https://americanfootball.jp/
◆ Xリーグ： https://xleague.jp/
◆第 77 回ライスボウル： https://xleague.jp/feature/ricebowl77

公益社団法人日本アメリカンフットボール協会
〒 160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町 4-2
Japan Sport Olympic Square 801
TEL:03-5843-0482　FAX:03-5843-0483

JAPAN AMERICAN FOOTBALL ASSOCIATION
#801 Japan Sport Olympic Square
4-2 Kasumigaoka-machi, Shinjuku-ku
Tokyo 160-0013, Japan

ライスボウルトーナメントセミファイナル詳報①

パナソニックが IBM の猛追を退けて大勝　3 年連続のライスボウルへ

ライスボウルトーナメント（RBT）セミファイナル第 1 試合はリーグ戦全勝のパナソニック インパルス（Division A 1 位）が、リーグ戦で 4 勝 1 敗の IBM BIG BLUE（Division B 2 位）を相手に前半から試合を有利に進め、最終クオーターに 2 タッチダウン、1 フィールドゴールを挙げて 47 - 23 と圧勝した。

パナソニックは 3 年連続 10 回目のライスボウル進出を決めた。

パナソニックは佐伯眞太郎の 39 ヤードフィールドゴールで先制するが、IBM もすぐに K 福岡勇斗の 29 ヤードフィールドゴールで同点とする。パナソニックは 2 度目のポゼッションで、ランニングバック（RB）立川玄明が IBM 守備陣のタックルをもろともせずに中央突破する 8 ヤードランでタッチダウンを奪って、10 - 3 と再びリードした。

その後も K 佐伯（眞）の 2 本のフィールドゴールやクオーターバック（QB）石内卓也（写真）からタイトエンド（TE）ダックス・レイモンドへのタッチダウンパスなどで 23 - 6 として前半を折り返した。

第 3 クオーター最初の攻撃でもタッチダウンをあげたパナソニックは、30 - 6 としてこの試合で最大となる 24 点のリードを奪った。

しかし、ここから IBM が自慢のハイパーオフェンスで反撃を始める。まず、鈴木隆貴がパナソニックのキックオフ 100 ヤードリターンしてタッチダウン。その 2 分 36 秒後には QB 政本悠紀からワイドレシーバー（WR）白根滉への 32 ヤードタッチダウンパスがヒットして 20 - 30 と追い上げた。さらには第 3 クオーター残り 2 分 19 秒に K 福岡が 45 ヤードのフィールドゴールを蹴り込み、1 ポゼッション差にまで点差を縮めた。

パナソニックはここで、QB 石内を再投入する。その理由について荒木延祥監督は「（石内）卓也はベンチで IBM の守備をじっくり見ていた。僕と攻め方についてコミュニケーションを図っていたので、流れを修正するため」と説明した。これが功を奏した。

第 4 クオーター開始後 13 秒に、敵陣 2 ヤードからのオフェンスで RB 立川が中央突破。37 - 23 と得点差を再び広げるとともに悪い流れを断ち切った。その後も K 佐伯（眞）のフィールドゴールと RB 岩月要の 59 ヤード独走タッチダウンラン で IBM を突き放した。

JAFA JAPAN AMERICAN FOOTBALL ASSOCIATION
公益社団法人日本アメリカンフットボール協会
〒 160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町 4-2
Japan Sport Olympic Square 801
TEL:03-5843-0482　FAX:03-5843-0483
JAPAN AMERICAN FOOTBALL ASSOCIATION
#801 Japan Sport Olympic Square
4-2 Kasumigaoka-machi, Shinjuku-ku
Tokyo 160-0013, Japan

ライスボウルトーナメントセミファイナル詳報②

3 連覇狙う富士通がオービックとの激闘制してライスボウル進出 3 年連続でパナソニックと激突

X1 Super のライスボウルトーナメント（RBT）セミファイナル第 2 試合は Division B1 位の富士通フロンティアーズと Division A2 位のオービックシーガルズが対戦。終盤までもつれる展開となった一戦は、試合残り 3 分を切ったところで勝ち越した富士通が、24 対 17 で勝利した。3 連覇を狙う富士通はライスボウルに駒を進め、3 年連続でパナソニック インパルスと覇権を争う。

先制したのはオービックだった。富士通のファーストドライブをスリーアンドアウトで止めたオービックは、自陣 32 ヤードから攻撃をスタート。クオーターバック（QB）タイラー・クルカがタイトエンド（TE）ホールデン・ハフへの 24 ヤードパスなど次々と精度の高いパスを通してゴール前 10 ヤードまで攻め込むと、最後はワイドレシーバー（WR）西村有斗へタッチダウンパスをヒット。司令塔の 5 連続パスが決まったオービックは、幸先良く先取点を奪った。

いきなり 7 点のビハインドを負った富士通も、すかさず試合を振り出しに戻す。3 試合ぶりの先発となった QB 高木翼の 34 ヤードパスやランニングバック（RB）トラショーン・ニクソン（写真中央）のランなどで着実にボールを進めると、ゴール前 1 ヤードでは WR サマジー・グラントのタッチダウンランで同点に追いついた。

さらに富士通は、自陣 18 ヤードからの攻撃を納所幸司の 41 ヤードフィールドゴールにつなげ勝ち越しに成功する。その後は追加点を奪えなかったが、フィールドゴールをブロックするなどオービックに得点を許さず、3 点リードで前半を折り返した。

後半に入ると、オービックは高坂將太の 50 ヤードフィールドゴールが決まり試合を振り出しに戻す。しかし富士通も、QB 高木と WR グラントのホットラインでチャンスメーク。最後も QB 高木から WR グラントへの 6 ヤードタッチダウンでオービックを突き放した。

そして､富士通の 7 点リードで迎えた勝負の最終クオーター。3 シーズンぶりのライスボウルを目指すオービックは、QB クルカのパスを軸に富士通陣内へと突き進む。仕上げは、主将の RB 李卓がゴール前 6 ヤードからエンドゾーン内へボールを運び、残り時間 7 分を切ったところで 17 対 17 の同点とした。

しかし、最後に笑ったのは富士通だった。3 連覇に向けてライスボウル進出に闘志を燃やす富士通は、RB ニクソンのランを中心にじっくりと攻め立て時間をコントロールする。オービック陣内 24 ヤードからの攻撃で RB ニクソンがファンブルしてヒヤリとさせるが、WR 松井理己がリカバーして攻撃権を渡さない。すると次のプレーで、RB ニクソンが名誉挽回となる 16 ヤードの決勝タッチダウンラン。最後のオービックの攻撃も守備陣がきっちりと封じた富士通は、第 1 試合で勝利したパナソニックが待つファイナルへ駒を進めた。

JAFA JAPAN AMERICAN FOOTBALL ASSOCIATION
公益社団法人日本アメリカンフットボール協会
〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町 4-2
Japan Sport Olympic Square 801
TEL:03-5843-0482　FAX:03-5843-0483

JAPAN AMERICAN FOOTBALL ASSOCIATION
#801 Japan Sport Olympic Square
4-2 Kasumigaoka-machi, Shinjuku-ku
Tokyo 160-0013,Japan

第 77 回ライスボウルの見どころ

アメリカンフットボール日本選手権プルデンシャル生命杯第 77 回ライスボウルは富士通フロンティアーズ対パナソニック インパルスの対戦に決まり、過去 2 年と同じ顔合わせとなった。富士通にとっては 3 連覇を、パナソニックにとっては過去 2 年の雪辱を果たすとともに 8 年ぶりの日本一奪還を目指す試合となる。

ライスボウル 2 連覇中の富士通はまさに盤石といった戦いぶりで 3 年連続のライスボウル進出を決めた。1 試合平均 39.7 得点という驚異的な数字を残す一方で、相手に許したタッチダウンは 7 試合でわずか 6 つである。ライスボウルトーナメントに入ってからはエースクオーターバック（QB）髙木翼（写真）とリーディングラッシャーのトラショーン・ニクソンが欠場したクオーターファイナル（対東京ガスクリエイターズ、10 - 7 で勝利）と、長年のライバルであるオービックシーガルズと熱戦を繰り広げたセミファイナル（24 - 17）で苦しみながらも接戦を勝ち抜くしたたかさを見せた。

今年の富士通の特徴は若手の成長が著しいことだ。序盤から大差をつける試合展開が多かったために、先発メンバー以外の選手が多く出場機会を得ることができた。QB 髙木、ランニングバック（RB）ニクソン、ワイドレシーバー（WR）松井理己、ラインバッカー（LB）徳茂宏樹、趙翔来といった従来の主力メンバーに加え、QB 野沢研、RB 三宅昂輝、WR 木村和喜、WR 柴田源太、ディフェンスバック（DB）高口宏起らが結果を残した。

また、こうした選手が前半を 10-10 の同点で折り返したアサヒビールシルバースター戦や僅差で勝利した東京ガス戦で接戦の試合展開を経験して勝負強さを身につけたことも大きな収穫だった。

オフェンスは言うまでもなく QB 髙木が繰り出す安定したパスオフェンスとニクソンを中心としたパワフルなランプレーが大きな武器だ。山下公平や大久保壮也といった 2022 年度のオール X リーグ選出選手がそろうオフェンスライン（OL）は強力で、富士通オフェンスの屋台骨と言って過言ではない。

ディフェンスはジョー・マシス、宇田正男らディフェンスライン（DL）と LB 陣がランに対して堅い守備を見せる一

方で、アルリワン・アディヤミ、渡辺裕也、高口がいずれもリーグトップタイの３インターセプトを記録しており、空中戦の守りも万全だ。

一方のパナソニックは今季からクオーターバック（QB）を石内卓也と荒木優也の二人体制に切り替えてオフェンスを展開してきた。石内がレギュラーシーズン５試合で９個のタッチダウンパスを成功させれば、荒木も負けじと６タッチダウンパスでハイパーオフェンスの司令塔を務めている。

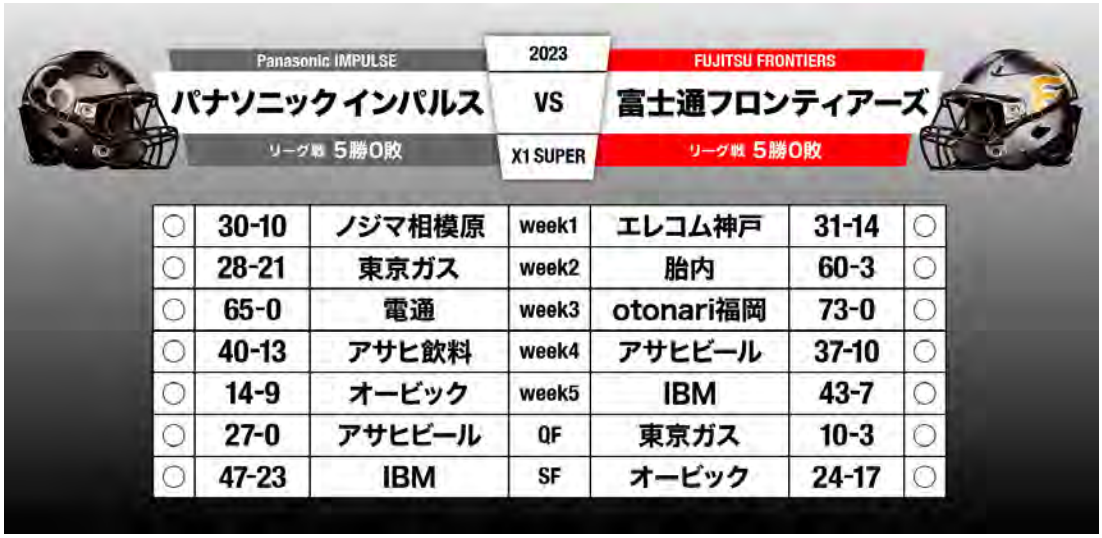
石内と荒木が繰り出すパスを受けるのがタイトエンド（TE）ダックス・レイモンド、ワイドレシーバー（WR）桑田理介、木戸崇斗らレシーバー陣だ。この３人はいずれも３タッチダウンパスキャッチを記録しているだけでなく、ビッグプレーを生み出す能力が高い。特にレイモンドは196センチのサイズを生かしてタックルを跳ね返し、ランアフターキャッチでさらに距離を重ねる。

地上戦ではラッシング２位のランニングバック（RB）立川玄明に、シーズン途中で故障から復調したミッチェルビクタージャモーが加わってさらに厚みを加えた。ランとパスのどちらを中心にオフェンスを組み立てても高い得点能力を誇るのがパナソニックの特徴だ。

ディフェンスは驚異的に失点が少ない。ライスボウルトーナメント（RBT）セミファイナルまでの７試合で、相手のオフェンスに２つ以上のタッチダウンを許した試合がない。第２節の東京ガスクリエイターズは１試合で３タッチダウンを奪われたが、そのうち２本はインターセプトリターンとパントブロックリターンによるものだ。シュートアウトとなったRBTセミファイナルのIBM BIG BLUE戦でもオフェンスによるタッチダウンは１度しか喫していない。

この鉄壁ディフェンスを最前列で支えるのが小石直哉、梶原誠人、イグエケリー祥一らディフェンスライン（DL）陣だ。その後ろをラインバッカー（LB）のジャボリー・ウィリアムス、加藤聖貴、主将の青根奨太（写真）、小西憂らが固め、バックフィールドをワイズマンモーゼス海人、ジョシュア・コックス、秋山雅洋、土井康平らボールホーカーが守る。

今季ここまで負けなしで、しかも２度の完封勝利を記録しているパナソニックは意外にもディフェンスの主要部門でトップ10に名前を連ねている選手が少ない。DL小西が２サックで同率４位にランクされているのみだ。裏を返せば誰もがビッグプレーを生む能力を持ち、ディフェンスの全11個のポジションに隙がないことの表れだ。



Panasonic IMPULSE	2023	FUJITSU FRONTIERS
パナソニックインパルス	VS	富士通フロンティアーズ
リーグ戦 5勝0敗	X1 SUPER	リーグ戦 5勝0敗

○	30-10	ノジマ相模原	week1	エレコム神戸	31-14	○
○	28-21	東京ガス	week2	胎内	60-3	○
○	65-0	電通	week3	otonari福岡	73-0	○
○	40-13	アサヒ飲料	week4	アサヒビール	37-10	○
○	14-9	オービック	week5	IBM	43-7	○
○	27-0	アサヒビール	QF	東京ガス	10-3	○
○	47-23	IBM	SF	オービック	24-17	○

JAFA JAPAN AMERICAN FOOTBALL ASSOCIATION
公益社団法人日本アメリカンフットボール協会
〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-2
Japan Sport Olympic Square 801
TEL:03-5843-0482　FAX:03-5843-0483

JAPAN AMERICAN FOOTBALL ASSOCIATION
#801 Japan Sport Olympic Square
4-2 Kasumigaoka-machi, Shinjuku-ku
Tokyo 160-0013, Japan

FUJITSU FRONTIERS

TEAM PROFILE

富士通フロンティアーズは富士通グループのアメリカンフットボール経験者が集まり、同好会として発足する。1985年、"アマチュアリズムで仕事もフットボールも日本一に"をスローガンに、日本アメリカンフットボール界の開拓者となる事を誓い「FRONTIERS」と命名し、日本社会人アメリカンフットボール協会2部リーグに加盟。以降、急速に力をつけ、創部3年目には社会人最高峰の1部リーグに昇格した。

2014年のシーズン創部30年目にして、6度目の出場となるJAPAN X BOWLで初めて勝利し、社会人日本一に。初出場となる日本選手権(RICE BOWL)でも学生王者を相手に勝利を納め、「日本一」の栄冠に輝いた。また、2016年シーズンに2度目の日本一を達成すると、以降、2018年シーズンまで3連覇を達成。2019年シーズンには、それまでの実績をベースに、さらなる高みに上るべく、それまでチームを率いていた藤田ヘッドコーチが勇退し、山本ヘッドコーチ体制となる。新体制で迎えた2019年シーズン、史上最多タイの4連覇を達成。2022シーズンは2連覇7度目となる日本一を達成、2023シーズンは3連覇を目指す。

発足時のスローガンを体現すべく、所属する選手・スタッフは、仕事と競技の両立と、拠点である川崎市の「かわさきスポーツパートナー」として、地域貢献活動にも積極的に参加している。

QUICK FACTS

カテゴリ	実業団
母体企業	富士通株式会社
オフィシャルスポンサー	-
創部／加盟	1985年/1986年
Xリーグリーグ戦通算成績 ※1996年～X2以下除く ※2020年特別ルール短縮開催試合数含む	■レギュラーシーズン 154戦 124勝 28敗 2分 ■ポストシーズン 37戦 26勝 11敗 ※ポストシーズンはJXB(2021年度～ライスボウル)、順位決定戦含む
日本社会人選手権出場／優勝 ※2021年度からライスボウルに移行	出場12回/優勝5回(2014/2016/2017/2018/2019)
ライスボウル出場／優勝	出場7【2】回/優勝7【2】回 (2014/2016/2017/2018/2019/2021/2022) ※【 】内は2021年度から社会人対決の回数
チーム名の由来	日本のフットボール界の先駆者(フロンティア)になることを願って
チームカラー	赤
公式ウェブサイト	https://sports.jp.fujitsu.com/frontiers/
チームスローガン	WIN THE DAY
スローガンに込めた意味	日本一を達成するために「いま」自分は何をするのかを常に考え、日々自分に勝つ。シーズンを通した大きな成長に向けて1%の成長を日々重ねる。

富士通フロンティアーズ 2023リーグ戦 日程

節	日付	Kick off	会場	対戦チーム
1	9/9(土)	12:00	MKタクシーフィールドエキスポ	エレコム神戸ファイニーズ
2	9/24(日)	10:30	富士通スタジアム川崎	鵬内DEERS
3	10/8(日)	13:30	富士通スタジアム川崎	otonari福岡SUNS
4	10/22(日)	13:30	富士通スタジアム川崎	アサヒビルシルバースター
5	11/5(日)	11:00	横浜スタジアム(予定)	IBM BIG BLUE

過去のリーグ戦 戦績

2008年まで2ステージ制

年度	所属	レギュラーシーズン 勝	負	分	Div順位	ポストシーズン
1996	Xセントラル	2	3		4位	
1997	Xイースト	2	3		4位	
1998	Xセントラル	2	2	1	4位	
1999	Xセントラル	3	2		3位	
2000	Xイースト	5	0		1位	FINAL6 ベスト4
2001	Xイースト	4	1		2位	FINAL6 1回戦
2002	Xイースト	5	0		1位	東京スーパーボウル準優勝
2003	Xイースト	3	1	1	3位	
2004	Xセントラル	2	3		4位	
2005	Xイースト	3	2		3位	
2006	Xセントラル	3	2		3位	
2007	Xイースト	4	1		1位	ジャパンXボウル準優勝
2008	Xイースト	4	1		2位	FINAL6 1回戦

2009～2015年は3ステージ制

年度	所属	レギュラーシーズン 1stステージ戦績 勝	負	Div順位	2ndステージ戦績 ランク	勝	負	ポストシーズン
2009	Xセントラル	5	0	1位	上位リーグ	2	0	ジャパンXボウル準優勝
2010	Xセントラル	4	1	2位	上位リーグ	1	1	
2011	Xイースト	4	1	2位	上位リーグ	2	0	ジャパンXボウル準優勝
2012	Xセントラル	4	1	2位	上位リーグ	1	1	ファイナルステージ
2013	Xイースト	5	0	1位	SUPER9	2	0	ジャパンXボウル準優勝 SUPER 9 総合1位
2014	Xイースト	5	0	1位	SUPER9	2	0	ジャパンXボウル優勝/ライスボウル優勝
2015	Xイースト	5	0	1位	SUPER9	2	0	ジャパンXボウル準優勝 SUPER 9 総合1位

2016年よりNFA式リーグ戦+JXBトーナメント

年度	所属	レギュラーシーズン 勝	負	Div順位	ランク	ポストシーズン
2016	Xイースト	6	0	1位	SUPER9	SUPER 9 総合1位/ジャパンXボウル優勝/ライスボウル優勝
2017	Xイースト	5	1	1位	SUPER9	SUPER 9 総合2位/ジャパンXボウル優勝/ライスボウル優勝
2018	Xイースト	6	0	1位	SUPER9	SUPER 9 総合1位/ジャパンXボウル優勝/ライスボウル優勝

2019年よりX1 Super/X1 Area構成の新リーグ戦方式

年度	所属	レギュラーシーズン 勝	負	Div順位	ポストシーズン
2019	X1 Super	7	0	1位	総合1位/ジャパンXボウル優勝/ライスボウル優勝
2020年 新型コロナウイルス(COVID-19)の影響により特別ルールによる短縮開催					
2020	X1 Super(BlockA)	3	0	-	ジャパンXボウル準優勝
2021	X1 Super	6	1	2位	総合2位/ライスボウル優勝

2022年よりX1Super 2Div.制、ライスボウルトーナメント戦方式

年度	所属	レギュラーシーズン 勝	負	分	Div順位	ポストシーズン
2022	X1Super(Div.B)	5	0		1位	ライスボウル優勝

STAFF

部長 山田 厳英
後援会長 保田 益男
副部長 豊田 建
ゼネラルマネージャー 常盤 真也
ヘッドコーチ 山本 洋
オフェンスコーディネーター 安木 達之
ディフェンスコーディネーター 延原 典和
コーチ グレゴリー ゴードン
ケビン ライトナー
ピエール イングラム
デイビッド パウロズニック
ジュリアン ポセイ
海島 裕希/森 正也
平井 基之/後藤 大地
金 雄一/宜本 慎平
勝山 晃
オフェンスアシスタント 松場 智紀
ディフェンスアシスタント 吉規 晃弘
ストレングスコーチ 田村 謙太郎
加藤 博久
事務局長 長尾 光隆
マネージャー 山田 夏海/伊藤 桃代
近喰 春香/宮川 法子
太田 佳奈/廣上 心花
岩間 結子/興津 胡桃
ゴ アラム
クリエイター 對馬 隆太
アドバイザー 奥 亮
吉田 明宏
スタッフ 大内 勇/下村 修平
田上 薫也/福井 雄哉
ドクター 岩本 隆源
ヘッドトレーナー 眞田 高起
井澤 秀野
トレーナー 神永 健介
チアリーダー 奥田 慶香
高山 あか理/倉橋 萌菜
久保田 志真子/森岡 紗羅
指宿 ひかり/永田 桃花
三浦 百恵/大橋 貴世
片平 瑞歩/高萩 佳奈
村松 佑華/尾畑 希帆
金沢 結萌/谷本 実安梨
吉村 紗

JAFA JAPAN AMERICAN FOOTBALL ASSOCIATION
公益社団法人日本アメリカンフットボール協会
〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町 4-2
Japan Sport Olympic Square 801
TEL:03-5843-0482 FAX:03-5843-0483
JAPAN AMERICAN FOOTBALL ASSOCIATION
#801 Japan Sport Olympic Square
4-2 Kasumigaoka-machi, Shinjuku-ku
Tokyo 160-0013, Japan

PLAYER

主 将…(主)
副 将…(副)
新規登録…(新)
移 籍…(移)
復 帰…(復)

0 DL じょー ましす ジョー マシス 28才 191cm 118kg ワシントン大学	1 DB わたなべ ゆうや 渡辺 裕也 24才 180cm 90kg 法政大学学	2 RB とらしょーん にくそん トラショーン ニクソン 31才 186cm 106kg ニューメキシコ州立大学	3 LB くげ ゆういちろう 久下 裕一朗 27才 172cm 85kg 立命館大学	4 WR さまじー ぐらんと サマジー グラント 28才 175cm 80kg アリゾナ大学	5 K/P のうしょ こうじ 納所 幸司 31才 178cm 90kg 久留米大学	6 LB とくも ひろき 徳茂 宏樹 26才 176cm 86kg 明治大学	7 DB (新) ぶろんそん びーてぃー ブロンソン ビーティー 29才 188cm 90kg 日本大学	9 DL みやがわ たいすけ 宮川 泰介 25才 185cm 105kg 日本大学	
10 DL かみやま きょうすけ 神山 恭祐 31才 171cm 107kg 立命館大学	11 WR きむら かずき 木村 和喜 25才 174cm 79kg 立命館大学	12 DB (新) きたがわ たいよう 北川 太陽 23才 183cm 92kg 関西学院大学	13 WR こうつさ しゅんや 高津佐 隼矢 27才 173cm 79kg 法政大学	14 DB たかぐち ひろき 高口 宏起 26才 174cm 82kg 日本大学	15 QB のざわ けん 野沢 研 24才 178cm 78kg 立命館大学	16 WR (新) いまなか のぞむ 今中 希 26才 170cm 79kg カンサスコーストライデンツ/横浜ヴィーナスエンジェルス	17 WR いとかわ そうへい 糸川 創平 26才 175cm 78kg 法政大学学	18 QB たかぎ つばさ 高木 翼 31才 185cm 93kg 慶應義塾大学	19 WR こかじ きょうへい 小梶 恭平 27才 175cm 82kg 近畿大学
21 RB みやけ こうき 三宅 昂輝 24才 175cm 80kg 関西学院大学	22 DB (新) あべ ゆうすけ 阿部 裕介 23才 181cm 80kg 日本大学	23 DB おくだ りょうた 奥田 凌大 29才 177cm 83kg 立命館大学	24 DB たなか あきと 田中 彰人 33才 179cm 78kg 立命館大学	25 WR さかもと あんとにーまうなでぃ 坂本 アントニーマウネディ 26才 181cm 83kg 神奈川大学学	26 RB (新) よこがわ ごうし 横川 豪士 22才 175cm 81kg 立命館大学	27 DB (復) おくの きょうへい 奥野 喬平 27才 186cm 85kg 立命館大学	28 RB かがわ まさなり 香川 将成 24才 165cm 80kg 関西外語大学	29 DB はやし けいすけ 林 奎佑 25才 182cm 92kg 立命館大学	31 DB たかおか たくみ 髙岡 拓稔 26才 180cm 83kg 早稲田大学
32 DB こんた ゆうき 近田 優貴 26才 168cm 77kg 立命館大学	33 RB/TE たかぐち かずき 高口 和起 30才 176cm 102kg 日本大学	35 LB たけうち しゅうへい 竹内 修平 34才 183cm 88kg 日本福祉大学	38 QB (新) はまぐち まさゆき 濱口 真行 22才 175cm 75kg 関西大学	40 DB あるりわん あでぃやみ アルリワン アディヤミ 33才 178cm 84kg サンディエゴ大学	41 LB まえの たいち 前野 太一 26才 168cm 82kg 関西大学	42 LB (新) まえの きいち 前野 貴一 22才 176cm 87kg 関西大学	43 DB いもと けんいちろう 井本 健一朗 27才 175cm 80kg 慶應義塾大学	44 LB (主) ちょう しょうき 趙 翔来 28才 184cm 100kg 日本大学	45 DB よしい ゆうすけ 吉井 勇輔 25才 178cm 85kg 法政大学学
47 LB やまぎし あきお 山岸 明生 28才 182cm 94kg 関西学院大学	50 LB かいざき ゆう 海﨑 悠 25才 173cm 82kg 関西学院大学	51 LB (新) やまだ あつや 山田 敦也 22才 181cm 90kg 法政大学	53 DL たかはし こうき 髙橋 孝綺 27才 182cm 120kg 法政大学	55 OL あんどう じゅんいち 安東 純一 27才 183cm 126kg 立命館大学	60 OL やました こうへい 山下 公平 30才 180cm 115kg 関西大学	61 OL (新) ふじわら かい 藤原 快 22才 180cm 118kg 中央大学	64 OL おおくぼ まさや 大久保 壮哉 25才 185cm 137kg 中央大学	70 OL うすい なおき 臼井 直樹 29才 185cm 120kg 日本大学	71 OL かく ゆうにん 郭 宇寧 25才 188cm 110kg 日本大学
72 OL (復) こばやし ゆうたろう 小林 祐太郎 35才 190cm 110kg 日本大学	73 OL はやま こたろう 葉山 湖大郎 24才 187cm 113kg 桜美林大学	77 OL ちゃん りゃんゆっ 張 リャンユッ 30才 183cm 120kg 近畿大学	79 OL やまぐち あきら 山口 輝 25才 190cm 135kg 中央大学学	81 WR (移) なかむら てるあきくらーく 中村 輝晃クラーク 34才 175cm 80kg 日本大学	82 TE くらの ひろき 藏野 裕貴 29才 188cm 110kg 関西学院大学	83 WR しばた げんた 柴田 源太 27才 181cm 89kg 慶應義塾大学	84 WR じん ゆうせい 神 優成 24才 186cm 84kg 法政大学学	85 WR まつい りき 松井 理己 26才 185cm 88kg 関西学院大学	87 TE ふくずみ こうき 福住 高基 24才 190cm 110kg 慶應義塾大学
88 WR (新) みやざわ りょう 宮澤 稜 22才 178cm 82kg 桜美林大学	90 DL ふじたに ゆうひ 藤谷 雄飛 29才 182cm 100kg 関西大学	95 DL うだ まさお 宇田 正男 24才 175cm 107kg 日本大学	97 DL (新) みずたに れん 水谷 蓮 23才 186cm 120kg 立命館大学	98 DL あさの だいち 浅野 大地 25才 178cm 97kg 立命館大学	99 DL たかはし りょうた 髙橋 伶太 32才 185cm 100kg 立命館大学	74 OL CFL選手 まちの ともや 町野 友哉 26才 197cm 136kg 京都大学			

(※CFL選手=カナディアンフットボールリーグ登録選手は帰国後、既存指定選手との入替が発生します)

※年齢は2023年9月開幕登録時

JAFA JAPAN AMERICAN FOOTBALL ASSOCIATION
公益社団法人日本アメリカンフットボール協会
〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町 4-2
Japan Sport Olympic Square 801
TEL:03-5843-0482　FAX:03-5843-0483

JAPAN AMERICAN FOOTBALL ASSOCIATION
#801 Japan Sport Olympic Square
4-2 Kasumigaoka-machi, Shinjuku-ku
Tokyo 160-0013, Japan

Panasonic IMPULSE

TEAM PROFILE

パナソニック インパルスは1974年に創部。日本フットボール界と弊社社員に衝撃(インパルス)を与えようということから「松下電工インパルス」と命名して活動を開始。

1987年には社内のCI(コーポレート・アイデンティティ)スポーツに認定され、全社的なバックアップ体制のもとでフットボール経験者のリクルーティングを中心としたチーム力強化のための環境が整備される。翌1988年シーズンに初の社会人決勝戦進出。1990年シーズンに初の社会人優勝を果たし、創部20年目にあたる1994年、創部30年目の2004年、以降2007年、2015年シーズンにライスボウルを制覇した。これまで社会人選手権出場15回／優勝7回、ライスボウル出場9回／優勝4回の戦績を誇る。

チーム理念は『アメリカンフットボールを通じて人びとに感動や活力を提供すると共に、本活動を通じて一流の社会人を育成・輩出し、社会の発展に貢献する』とし、仕事とフットボールの両立に対して妥協なく取り組むというインパルス活動を通じた人材育成に力を入れている。

QUICK FACTS

カテゴリ	実業団
母体企業	パナソニック株式会社
オフィシャルスポンサー	-
創部／加盟	1974年/1976年
Xリーグリーグ戦通算成績 ※1996年～X2以下除く ※2020年特別ルール短縮開催試合数含む	■レギュラーシーズン 153戦 137勝 16敗 ■ポストシーズン 39戦 21勝 18敗 ※ポストシーズンはJXB(2021年度～ライスボウル)、順位決定戦含む
日本社会人選手権出場／優勝 ※2021年度からライスボウルに移行	出場15回／優勝7回(1990/1994/1995/2004/2007/2008/2015)
ライスボウル出場／優勝	出場9【2】回/優勝4回(1994/2004/2007/2015) ※【 】内は2021年度から社会人対決の回数
チーム名の由来	「フットボール界と当社社員・同僚に衝撃(インパルス)を与えよう」ということから命名
チームカラー	パナソニックブルー・ブラック・グレー
公式ウェブサイト	https://panasonic.co.jp/ew/go-go-impulse/
チームスローガン	PASSION
スローガンに込めた意味	日本一を掴み取るためには、全力で取り組むのは当たり前。その上で熱い情熱を持って、自分だけでなく周りを巻き込んでいくことが大切。仕事にもフットボールにも全てにおいて情熱を出し続け、フットボールができることに感謝し情熱あふれるチームをつくる。

パナソニック インパルス 2023リーグ戦 日程

節	日付	Kick off	会場	対戦チーム
1	9/9(土)	15:00	MKタクシーフィールドエキスポ	ノジマ相模原ライズ
2	9/23(土)	13:30	富士通スタジアム川崎	東京ガスクリエイターズ
3	10/8(日)	13:00	平和堂HATOスタジアム	電通キャタピラーズ
4	10/22(日)	12:00	MKタクシーフィールドエキスポ	アサヒ飲料クラブチャレンジャーズ
5	11/4(土)	12:00	MKタクシーフィールドエキスポ	オービックシーガルズ

過去のリーグ戦 戦績

2008年まで2ステージ制

年度	所属	レギュラーシーズン 勝	負	分	Div順位	ポストシーズン
1996	Xウエスト	5	0		1位	FINAL6準決勝
1997	Xウエスト	5	0		1位	東京スーパーボウル準優勝
1998	Xウエスト	4	1		2位	FINAL6 1回戦
1999	Xウエスト	3	2		3位	
2000	Xウエスト	4	1		1位	東京スーパーボウル準優勝
2001	Xウエスト	4	1		1位	東京スーパーボウル準優勝
2002	Xウエスト	5	0		1位	FINAL6準決勝
2003	Xウエスト	5	0		1位	FINAL6準決勝
2004	Xウエスト	5	0		1位	ジャパンXボウル優勝/ライスボウル優勝
2005	Xウエスト	5	0		1位	ジャパンXボウル準優勝
2006	Xウエスト	5	0		1位	FINAL6準決勝
2007	Xウエスト	5	0		1位	ジャパンXボウル優勝/ライスボウル優勝
2008	Xウエスト	4	1		2位	ジャパンXボウル優勝/ライスボウル準優勝

2009～2015年は3ステージ制

年度	所属	レギュラーシーズン 1stステージ戦績 勝	負	Div順位	2ndステージ戦績 ランク	勝	負	ポストシーズン
2009	Xウエスト	5	0	1位	上位リーグ	2	0	ファイナルステージ
2010	Xウエスト	5	0	1位	上位リーグ	2	0	ジャパンXボウル準優勝
2011	Xウエスト	5	0	1位	上位リーグ	2	0	
2012	Xウエスト	4	1	1位	上位リーグ	1	1	
2013	Xウエスト	5	0	1位	SUPER9	1	1	SUPER 9 総合3位/ファイナルステージ
2014	Xウエスト	4	1	2位	SUPER9	1	1	SUPER 9 総合6位
2015	Xウエスト	5	0	1位	SUPER9	2	0	ジャパンXボウル優勝/ライスボウル優勝

2016年よりNFA式リーグ戦+JXBトーナメント

年度	所属	レギュラーシーズン 勝	負	Div順位	ランク	ポストシーズン
2016	Xウエスト	5	1	1位	SUPER9	SUPER 9 総合3位/セミファイナル進出
2017	Xウエスト	6	0	1位	SUPER9	SUPER 9 総合1位/セミファイナル進出
2018	Xウエスト	5	1	1位	SUPER9	SUPER 9 総合2位/セミファイナル進出

2019年よりX1 Super/X1 Area構成の新リーグ戦方式

年度	所属	レギュラーシーズン 勝	負	Div順位	ポストシーズン
2019	X1 Super	5	2	3位	総合3位/ジャパンXボウル準優勝
2020年 新型コロナウイルス(COVID-19)の影響により特別ルールによる短縮開催					
2020	X1 Super(BlockB)	1	1	-	
2021	X1 Super	7	0	1位	ライスボウル準優勝

2022年よりX1Super 2Div.制、ライスボウルトーナメント戦方式

年度	所属	レギュラーシーズン 勝	負	分	Div順位	ポストシーズン
2022	X1Super(Div.A)	5	0		1位	ライスボウル準優勝

STAFF

顧問 大瀧 清
部長 四方 哲郎
監督 荒木 延祥
オフェンスコーチ Edmond Davis
岸野 公彦/Inoke Funaki
橋本 将志/矢部 寛之
ディフェンスコーチ 相馬 明宣
倉本 卓哉/柴田 純平
飾磨 佳和/Dee Maggitt
キッキングコーチ
高山 直也/寺口 剛
アシスタントコーチ
粳田 盛/山本 紘生/石内 卓也

アナライジングスタッフ 小栗 伸公
プロフェッショナル・コーアクティブ・コーチ
石井 大介
リクルーティング・コーディネーター 岩元 洸
ドクター 内田 良平/米田 憲司
小泉 宏太/高島 雅俊
ストレングスコーチ 小原 智壮
松原 龍人/有延 悠
コンディショニングアドバイザー 佐藤 勝富嗣
アスレティックトレーナー 倉知 良博
佐々木 里子/金子 容子/井上 皓太
キャリアデベロップメントアドバイザー
脇坂 康生

広報 後藤 慧
協会委員 高本 史章
統括マネージャー 巽 哲夫
マネージャー/審判 永井 則雄
マネージャー 佐村 敬/加藤 翔太
柚木 一平/奥村 遥香/奥田 美/椎橋 結愛
正木 あみ/竹中 里奈/久米 瑞希/森野 蓮也
齋藤 友莉/中島 あかり/能勢 珠生
三浦 未来/野村 綾伽/鹿野 英樹/金清 麻由
サポートスタッフ/審判 小林 佑介
サポートスタッフ 三輪 泰督/福山 晃司
増谷 俊紀/岸本 翔平/園部 友美/西紋 隆弘
チームスタッフ/審判 中川 貴司

チームスタッフ 永井 竜馬/林 直輝
山口 洋貴/吉川 雅浩
審判 川畑 竜広/濱野 幸蓮/林 駿太
研修生 岸田 咲里/竜橋 直弘/瀬部 怜音
大浦 春紀/相模 倫良/難波 猛/藤原 竜大
穂積 雅史/森原 悠生/杉野 元美/山本 凌大
園田 治希/前田 花奈/佐久間 光稀/原 大河
チアリーダー Yuka/Mao
Suzuka/Manami/Ayana
Hikaru/Ami/Honoka/Moeko
チアスタッフ 丹下 綾菜/向井 実優
豊岐 明日香/平林 みゆ/北浦 苑恵
向井菜々

JAFA JAPAN AMERICAN FOOTBALL ASSOCIATION
公益社団法人日本アメリカンフットボール協会
〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町 4-2
Japan Sport Olympic Square 801
TEL:03-5843-0482 FAX:03-5843-0483

JAPAN AMERICAN FOOTBALL ASSOCIATION
#801 Japan Sport Olympic Square
4-2 Kasumigaoka-machi, Shinjuku-ku
Tokyo 160-0013, Japan

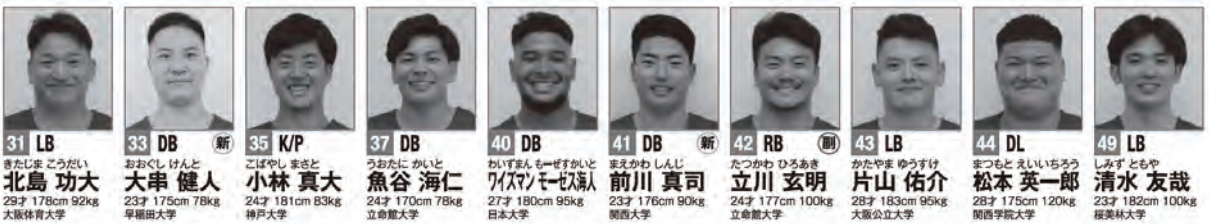
PLAYER

主　将…(主)
副　将…(副)
新規登録…(新)
移　籍…(移)
復　帰…(復)

0 DL	1 LB (主)	2 WR (復)	3 DB	4 LB	5 RB	6 WR	7 DB	8 QB
しみず れいじゅ	あおね しょうた	れおんしゃ ふぃーるず	あきやま まさひろ	じゃぼりー ういりあむす	みっちぇる びくたーじゃもー	なりた こうき	どい こうへい	いしうち たくや
清水 澪寿	青根 奨太	Leonsha Fields	秋山 雅洋	Jaboree Williams	ミッチェル ビクターージャモー	成田 光希	土井 康平	石内 卓也
26才 177cm 102kg	25才 177cm 94kg	27才 180cm 85kg	30才 173cm 81kg	27才 183cm 111kg	26才 173cm 83kg	27才 180cm 92kg	28才 173cm 79kg	30才 180cm 80kg
近畿大学	関西大学	University of Colorado	立命館大学	Wake Forest University	University of Virginia's College at Wise	立命館大学	甲南大学	関西大学

9 LB	10 LB	11 K/P	12 QB	14 WR	16 K/P	17 WR	18 WR	19 RB	20 DB
こにし ゆう	まるお れすり	さえき えいた	あらき ゆうや	ぶれなん つばさ	さえき しんたろう	きのした むねゆき	くわた りすけ	こいずみ のりみ	さいとう けんた
小西 憂	丸尾 玲寿里	佐伯 栄太	荒木 優也	ブレナン 翼	佐伯 眞太郎	木下 統之	桑田 理介	小泉 誠実	齋藤 健太
24才 177cm 96kg	27才 183cm 100kg	36才 179cm 80kg	25才 177cm 84kg	26才 184cm 82kg	31才 182cm 85kg	31才 172cm 80kg	24才 174cm 80kg	28才 169cm 86kg	32才 169cm 84kg
桃山学院大学	University of Texas at San Antonio	桃山学院大学	立命館大学	早稲田大学	立命館大学	関西大学	関西大学	同志社大学	日本大学

21 DB	22 DB	23 DB	24 DB	25 DB	26 RB	27 RB (新)	28 DB (新)	29 RB	30 LB
せいけ たいし	おだいら たいが	じょしゅあ こっくす	たけうち れん	やまもと よう	ふじもと たくや	いわつき かなめ	にしだ けんと	まきた けいすけ	にしおか ひでと
清家 大志	小平 泰雅	Joshua Cox	竹内 廉	山元 耀	藤本 拓弥	岩月 要	西田 健人	牧田 圭祐	西岡 英士
27才 179cm 85kg	25才 175cm 85kg	28才 180cm 86kg	30才 174cm 80kg	24才 165cm 75kg	28才 171cm 78kg	23才 168cm 77kg	23才 173cm 74kg	27才 173cm 85kg	33才 178cm 90kg
関西大学	法政大学	Central Michigan University	甲南大学	神戸大学	龍谷大学	立教大学	立命館大学	甲南大学	天理大学



31 LB	33 DB (新)	35 K/P	37 DB	40 DB	41 DB (新)	42 RB (副)	43 LB	44 DL	49 LB
きたじま こうだい	おおくし けんと	こばやし まさと	うおたに かいと	わいずまん もーぜすかいと	まえかわ しんじ	たつかわ ひろあき	かたやま ゆうすけ	まつもと えいいちろう	しみず ともや
北島 功大	大串 健人	小林 真大	魚谷 海仁	ワイズマン モーゼスかいと	前川 真司	立川 玄明	片山 佑介	松本 英一郎	清水 友哉
29才 178cm 92kg	23才 175cm 78kg	24才 181cm 83kg	24才 170cm 78kg	27才 180cm 95kg	23才 176cm 90kg	24才 177cm 100kg	28才 183cm 95kg	28才 175cm 120kg	23才 182cm 100kg
大阪体育大学	早稲田大学	神戸大学	立命館大学	日本大学	関西大学	立命館大学	大阪公立大学	関西学院大学	桜美林大学

52 OL	54 OL	55 OL	56 LB	57 DL	62 OL	65 OL	67 OL	73 OL	74 OL
しょうじ ゆうすけ	たかもり けいた	むらた けい	かとう まさき	こむらたに たいせい	さなだ しょうご	あぶたに りょう	さかぐち ともあき	かむら たける	うえさわ いーやん
東海林 優介	高森 恵太	村田 圭	加藤 聖貴	小村谷 泰誠	眞田 祥吾	油谷 凌	阪口 友章	嘉村 武瑠	上沢 一陽
23才 186cm 123kg	28才 182cm 120kg	28才 180cm 114kg	25才 174cm 94kg	28才 183cm 115kg	24才 184cm 128kg	31才 190cm 135kg	32才 184cm 122kg	24才 190cm 122kg	31才 185cm 125kg
立命館大学	日本大学	立命館大学	立命館大学	京都府立大学	立命館大学	関西学院大学	関西大学	立命館大学	関西学院大学

乃阪 OL/TE	78 OL	79 OL	80 WR (新)	81 WR	82 WR	83 WR (新)	84 WR	87 WR	88 WR
こにし としき	にしむら たくろう	かわにし かんた	だっくす れいもんど	おぐら ごう	おおしお りょうじ	やました そうま	ながぬま こうへい	さいもん こうじ	きど たかと
小西 俊樹	西村 拓朗	川西 貫太	Dax Raymond	小倉 豪	大塩 良至	山下 宗馬	長沼 晃平	西紋 弘次	木戸 崇斗
36才 184cm 120kg	28才 183cm 130kg	27才 180cm 123kg	28才 196cm 112kg	25才 184cm 94kg	23才 178cm 82kg	22才 175cm 80kg	27才 176cm 82kg	28才 188cm 100kg	30才 178cm 82kg
大阪学院大学	桃山学院大学	中央大学	Utah State University	日本大学	立命館大学	日本大学	神戸学院大学	近畿大学	関西学院大学

92 DL	94 DL	95 DL	97 DL (新)	98 DL	99 DL
ありむら かずや	はまぐち ゆうや	こいし なおや	おおた ふみや	かじわら まこと	いぐえ けりーしょういち
有村 雄也	濱口 裕哉	小石 直哉	太田 郁也	梶原 誠人	イグエ ケリー祥一
26才 182cm 110kg	25才 179cm 128kg	27才 181cm 120kg	22才 179cm 96kg	32才 186cm 118kg	29才 180cm 110kg
桃山学院大学	立命館大学	関西大学	立命館大学	関西学院大学	日本体育大学

※年齢は2023年9月1日時点

JAFA JAPAN AMERICAN FOOTBALL ASSOCIATION
公益社団法人日本アメリカンフットボール協会
〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町 4-2
Japan Sport Olympic Square 801
TEL:03-5843-0482　FAX:03-5843-0483

JAPAN AMERICAN FOOTBALL ASSOCIATION
#801 Japan Sport Olympic Square
4-2 Kasumigaoka-machi, Shinjuku-ku
Tokyo 160-0013, Japan

【プルデンシャル生命杯第 77 回ライスボウル取材要項】

1. 取材申請について

(1) 報道取材可能団体

テレビ・ラジオ・一般紙・地方紙・通信社・スポーツ紙各社・アメリカンフットボール専門誌等、原則としてスポーツ報道を目的とするメディアに限ります。

※ 上記に当てはまらない場合など主催者の判断により取材をお断りすることがあります。

※ 出場チーム関係者（出場チーム広報・出場チームから委託された業者等）は対象外となります。

※ フリーランスの方は必ず掲載予定の媒体責任者（編集長など）が申請をしてください。

(2) 申請方法

オンラインによる事前申請となります。

締切日までに、以下の URL にアクセスし、フォームに必要事項を記入の上送信してください。

オンライン申請 URL：https://forms.gle/rY21uEgCyyxtSZcb7

※事前の準備を整える必要がございますので、ご取材につきましては、12 月 28 日（木）18 時までにお申込みくださいますようお願い申し上げます。

※ 締め切り後の申請および当日の申請は、原則として受け付けません。

※ 申請が許可された場合、申請書内の登録メールアドレスにご連絡いたします。

(3) 取材人数制限について

■ペン記者：1 社につき 3 名まで

■写真記者：1 社につき 2 名まで

■テレビ・ラジオ：1 系列につき 1 クルー5 名まで

※ 中継局、後援各社を除きます。

※ 上記の「取材人数制限」を超える人数をご希望の場合は、別途ご相談ください。

※ 申請内容によっては人数調整をお願いする場合があります。

※ 申請許可された人数分の ID を受付時にお渡しします。

(4) 注意事項

・ ID の再発行はいたしませんので、紛失しないように取り扱いは厳重にお願いします。なお、ID は第三者への譲渡・貸与はできません。登録申請・許可された本人のみ有効です。

・ 写真、映像等の販売目的の撮影は、固くお断りします。

2. 本大会における取材・撮影ルール

(1) 報道受付および出入口

報道受付　⇒　関係者入口前（東京ドーム１階）

・ すべての報道関係者は、関係者入口から入場をお願いします。
・ 体調不良時、体温が 37.5°C 以上ある場合はご取材をご遠慮いただきますようにお願いをいたします。
・ 事前申請による登録許可を確認したうえ、ID をお渡しします。常時着用をお願いします。
・ 受付は試合開始 2 時間前からとなります。それ以前の入場はご遠慮ください。
・ フィールド上で撮影をされる方には受付でビブスをお渡しします。受付でその旨をお申し出いただき、撮影中は必ず着用してください。

(2) 記者席・カメラ撮影エリア・ENG エリアおよび利用方法

記者席　⇒　１階スタンド席　３塁側上段　（図①参照）
カメラ撮影エリア　⇒　フィールド内の定められたエリア　（図②参照）
ENG エリア　⇒　２階スタンド席　１塁側　（図①参照）

・ 食事は記者席および球場外にてお願いします。
・ 使用禁止の机・イス等、既存の機材・設備は動かさないでください。
・ 球場内全エリア禁煙となります。(球場外の指定エリアにてお願いします)
・ 試合後は、試合終了後 1 時間以内にご退席ください。
・ ライスボウル当日は東京運動記者クラブ室が工事のために使用不可となっておりますのでご注意ください。

(3) 取材ルール

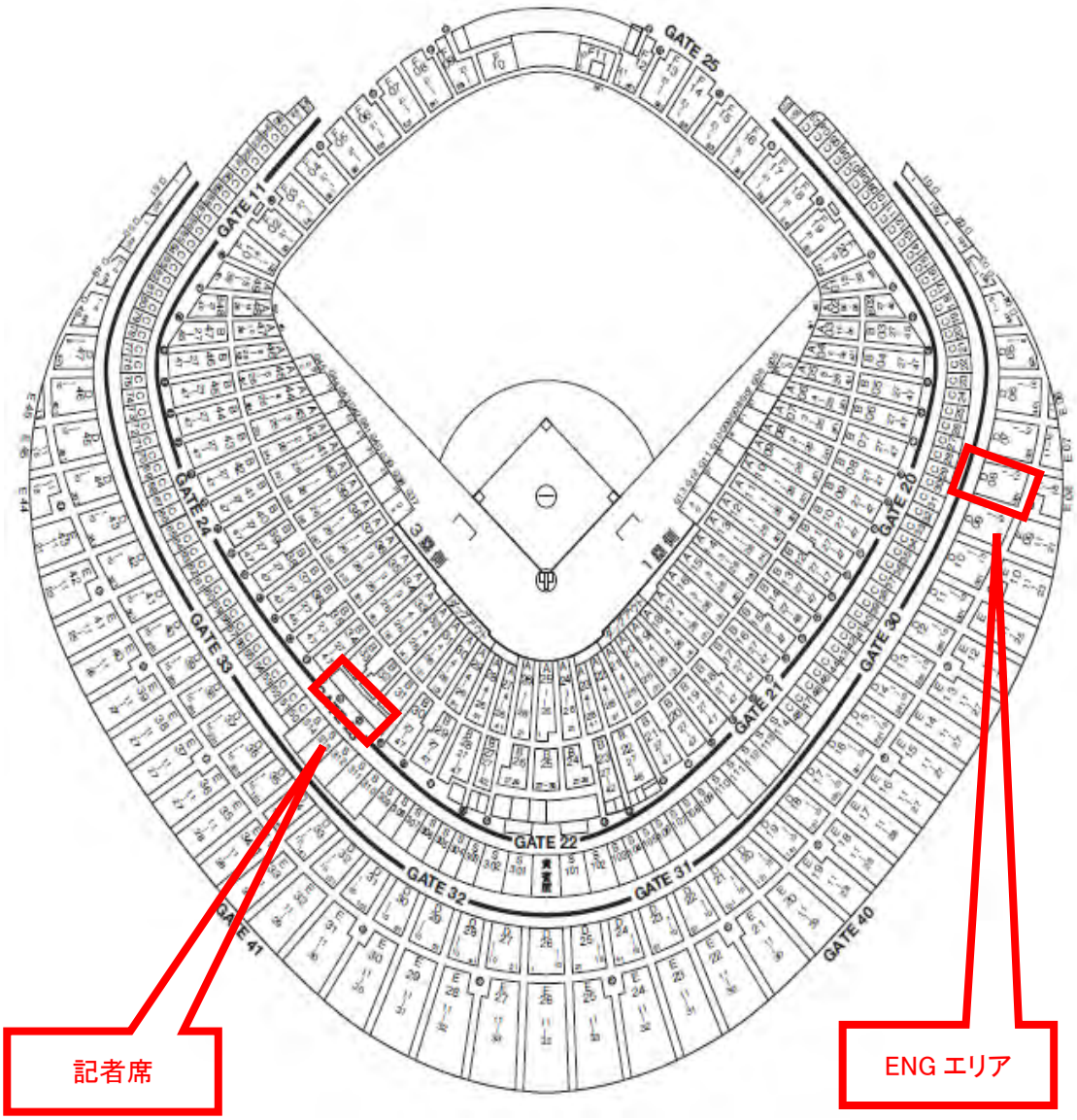
・ スタンドおよびコンコースでの取材は禁止とします。
・ 試合前～試合中の球場内全エリアでの取材を禁止とします。
・ 試合後は関係者サロンでプレスカンファレンスを開催いたします。プレスカンファレンスには出場チームの監督またはヘッドコーチ、主将、その他選手数名の取材機会をご提供いたします。

(4) スチール・ムービー撮影ルール

・ 大会主催者が指定する撮影可能エリア以外での撮影は禁止とします。
・ カメラマン同士の安全な距離を確保してください。
・ 撮影映像を試合終了前に配信することは禁止いたします。■記者席、ENG エ

リア

図①


GATE 25
GATE 11
GATE 24
GATE 23
GATE 20
GATE 30
GATE 21
GATE 22
GATE 32
GATE 31
GATE 40
3塁側
1塁側
記者席
ENG エリア

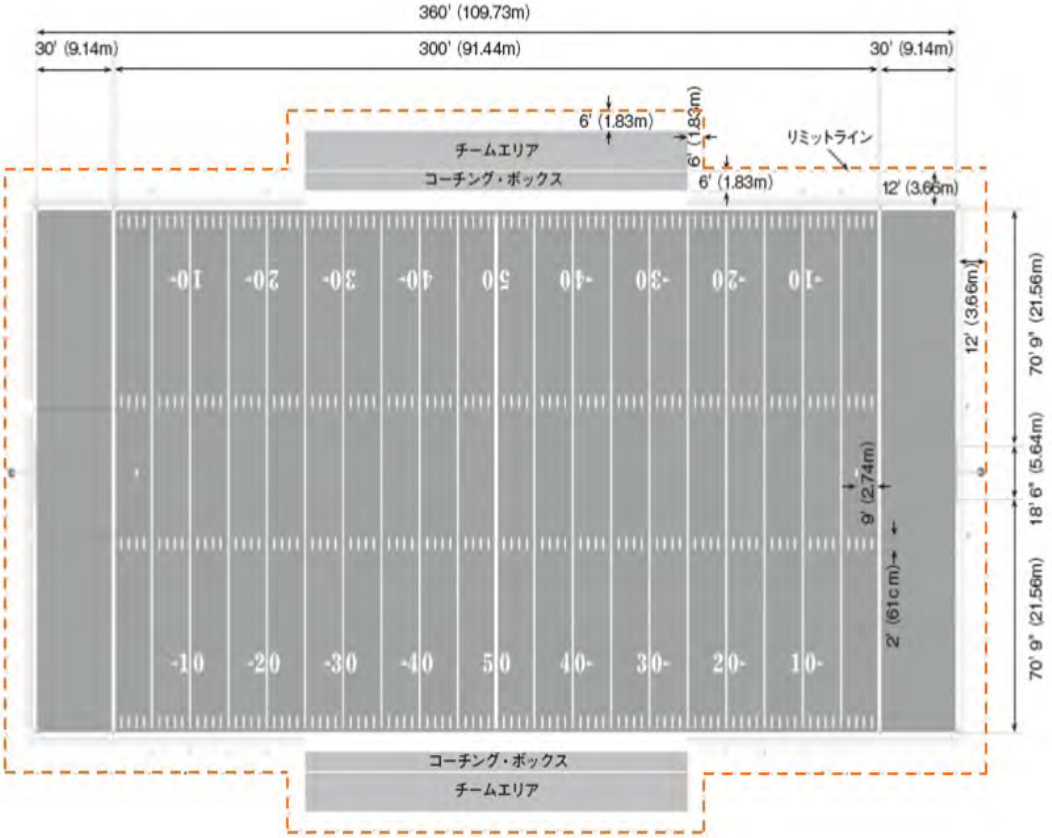
■カメラ撮影エリア（フィールド）

図②

フィールドに於けるカメラ撮影エリアは、ベンチエリアを除いた部分。

各フィールドラインから４ヤード以上外側のエリアとなります。

パススルー専用区域から撮影は禁止です。



日本アメリカンフットボール協会発行「公式規則」より